

# 1999 環境報告書

## GREEN WAVE 21 リポート

## ごあいさつ

近年、地球環境問題に対する注目と認識の高まりにともない、さまざまな企業・団体・個人が、この問題に関する企業の姿勢や商品への環境配慮に関心を寄せています。全社をあげて環境管理に取り組み、環境配慮型商品の開発を進めることは、企業の発展において重要な位置を占めています。

当社におきましても、1993年度より第1次環境中期計画「豊かな未来へ」の推進を皮切りに、1996年には全社組織として環境対策部を設置。1997年度には、新たに第2次環境中期計画「GREEN WAVE 21」への取り組みを開始しました。そして1999年2月には、私自ら議長を務める「環境会議」を発足させ、より精力的な環境保全活動を展開しています。

「GREEN WAVE 21」の活動においては、生産部門では追浜事業所が業界に先駆けてISO14001を認証取得。現在、全生産事業所で認証取得を達成しており、その他物流部門、開発・オフィス部門でも認証取得いたしました。この環境マネジメントシステムの継続的改善により環境パフォーマンスが向上し、その結果「GREEN WAVE 21」の達成につながるものと確信しています。

また当社では、商品企画部門において企画段階から「商品企画アセスメント」を実施しています。このように商品のライフサイクル全般にわたって環境に配慮した商品のご提供を進めています。

当社は、今後も生販一体の企業として、「よい品は結局おトクです」の企業理念のもとに、商品とサービスを通じて環境への配慮を地道に続けていく所存であります。

この報告書により、私どもの活動にご理解をいただくとともに、忌憚のないご意見・ご指摘をお寄せいただければ幸いです。

1999年9月



株式会社岡村製作所  
代表取締役社長

中村喜久男

## 本報告書について

この「1999 環境報告書」は、(株)岡村製作所が1997年度から実施している環境問題への取り組み「GREEN WAVE 21」に関する外部への初めての活動報告書です。本書は、1998年度(1998年4月～1999年3月まで)を対象とし、作成にあたっては、GRIガイドライン公開草案を参考といたしました。なお、GRI(Global Reporting Initiative)は、全世界で適用可能な持続可能性報告ガイドラインの作成を目的として、1997年に設立されました。企業や各種団体が参加し、1999年3月に上記ガイドライン草案が公表されています。

## もくじ

1 環境方針と推進体制.....	3
2 活動状況報告概略.....	5
2.1. GREEN WAVE 21の活動.....	5
2.2. 環境会計.....	6
3 グリーン調達に関する取り組み.....	7
3.1. グリーン調達.....	7
4 環境配慮型製品に関する取り組み.....	8
4.1. 基本姿勢.....	8
4.2. 環境配慮型製品の開発.....	9
4.3. グリーンウェブ商品とエコマーク商品.....	11
4.4. ロングライフ 製品の長期使用 とリサイクル.....	12
5 省エネルギーと省資源に関する取り組み.....	13
5.1. 省エネルギー.....	13
5.2. 省資源.....	14
6 排出物に関する取り組み.....	15
6.1. 発生源対策.....	15
6.2. 廃棄物削減.....	16
7 全社環境マネジメントシステムの構築をめざして.....	17
7.1. 環境マネジメントシステム.....	17
7.2. オフィスアセスメント.....	19
7.3. 環境教育 / 啓蒙活動.....	20
8 社会貢献活動.....	21
8.1. 地域活動および地球資源を守る活動.....	21
会社概要.....	22
環境への取り組みの歴史.....	22

# 1. 環境方針と推進体制

## 環境方針

### 環境理念

オカムラはすべての企業活動を通じ常に最適な環境技術と行動で『地球環境の保全』と『ゆたかな社会』づくりに貢献します。

### 行動指針

1. 従業員ひとりひとりの環境意識の啓発・向上と日常活動での全員参加。
2. 環境保全活動推進のための組織の最適化。
3. 製品開発段階からのアセスメントの徹底と、継続的な改善による環境負荷の低減。
4. 環境にやさしい資材・部品・商品やサービスの優先的購入。
5. 環境汚染物質・廃棄物発生の最少化、エネルギー効率の優れた工程・工法・設備の開発や導入を行う。また、継続的な改善による環境に対する負荷の低減。
6. 法律・規制等および自主管理基準の遵守。
7. 環境監査の実施、環境管理の維持・向上。
8. 環境管理状況および環境技術の公開。

## GREEN WAVE 21の行動目標

### グリーン調達

「グリーン購入ガイド」を作成し、環境負荷の少ない商品・資材等を優先的に使用・購入します。(1997年にガイド作成、1999年に定着)

### 回収・再資源

用紙類のバージンパルプ使用量を、1995年度比2000年までに20%削減します。

### 環境配慮型製品開発

再利用可能部品を組み込んだ商品の開発をめざします。リサイクル率100%可能な資材を使用した商品を開発します。

### 省エネルギー

工場のエネルギーを、1995年度比2000年までに10%削減します。(電気、ガス、灯油等)

### 省資源

工業用水の使用量を、1995年度比2000年までに10%削減します。

### 発生源対策

原単位あたりのCO<sub>2</sub>排出量を、2000年で1990年レベルとします。(温暖化対策)  
代替フロン(HCFC22.141B)を、1995年度比2004年までに35%削減します。(オゾン層破壊対策)

### 排出物削減

産業廃棄物の排出量を、1995年度比2000年までに原単位あたり20%削減します。

### 環境マネジメント

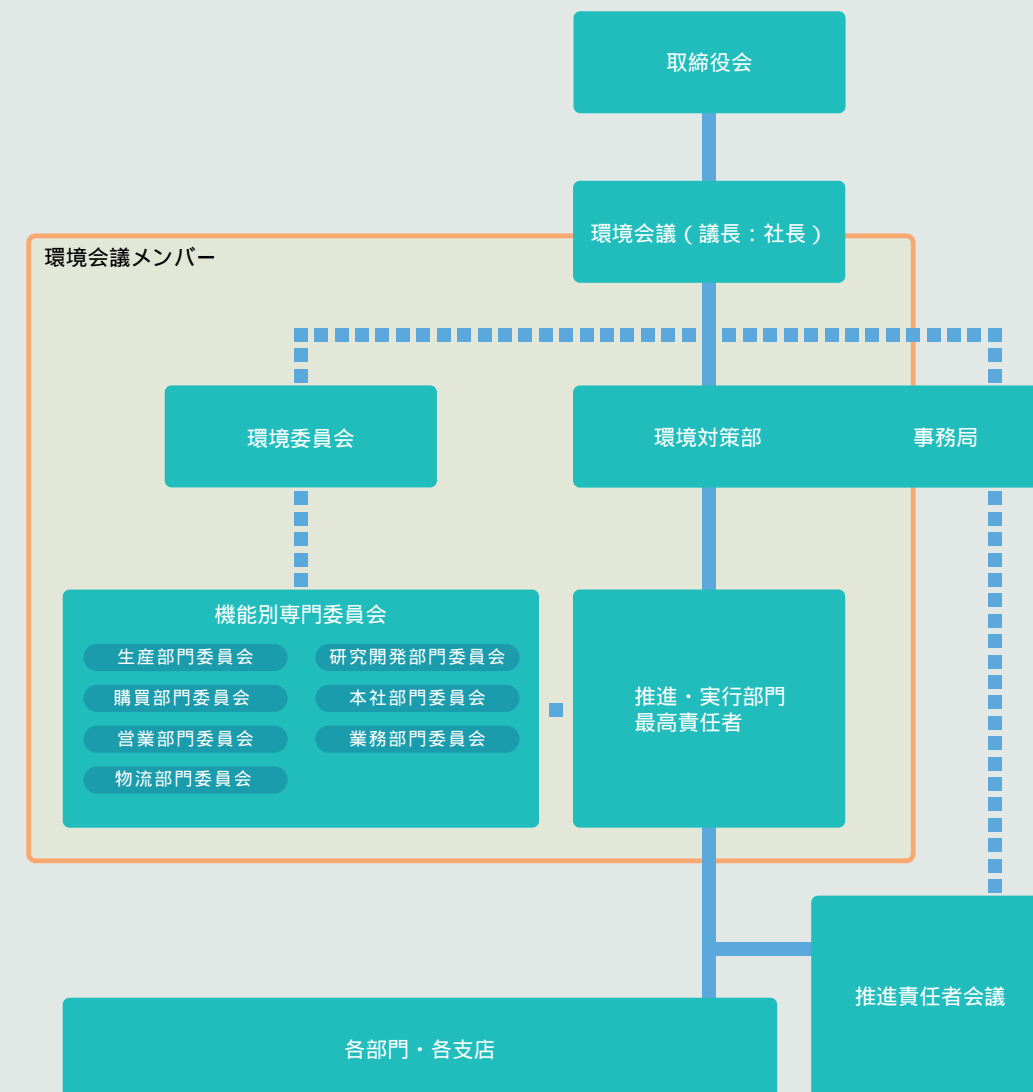
ISO14001環境管理システムに適合した環境マネジメントシステムの構築を、1999年度までに実施します。

### オフィスアセスメント

オフィス用の「省エネ、省資源、回収、リサイクル、排出物削減ガイド」を、1997年度中に作成し導入します。

## 推進体制

GREEN WAVE 21の推進にあたって、オカムラでは、1996年10月に6つの機能別専門委員会による環境組織を発足させ、生産・研究開発・購買・物流・業務・営業スタッフのそれぞれの分野で活動を展開。同時に、各分野ごとに任命した委員長による環境委員会を定期的に開催し、環境保全活動を推進してきました。この活動の中で、製品アセスメントやオフィスアセスメント、回収・再資源化をはじめとするさまざまな環境技術を開発し、当社環境対策の土台づくりを行いました。1999年2月には、こうした活動をさらに発展させるために、社長を議長とした環境会議を発足。6つの機能別専門委員会も7つに再編成し、より実行力のある組織体制のもと、トップダウンとボトムアップの双方向からの活動を展開していきます。なお、全社レベルでの環境保全活動の推進ならびに部門間の調整に関しては、1996年に設置した環境対策部が事務局として担当しています。



GREEN WAVE 21は、1997年4月からオカムラが取り組んでいる第2次環境中期計画です。この名称は、「GREEN(環境配慮)のWAVE(波)を自ら起こし、その波に乗る」という環境問題への積極的な取り組み姿勢をあらわしています。当社は、生販一体の会社として、今後もお客様への製品とサービスを通じて環境への配慮を行ってまいります。



## 2. 活動状況報告概略

### 2.1. GREEN WAVE 21の活動

オカムラでは、GREEN WAVE 21(第2次環境中期計画)の行動指針をもとに、具体的な行動目標を掲げ、目標の達成に向けて活動を実施しています。

活動2年目となる1998年度は、これまでの取り組みを発展させるとともに、全社展開を推進しました。その結果、環境マネジメントシステムの構築をはじめ、多くの活動を順調に進めることができました。

排出物削減、工業用水使用量削減やバージンパルプ使用量削減については、目標を上まわって達成しています。一方で、新工場の中井事業所設立にともない、全体の電気使用量は増加しました。また、1998年度は経済情勢等の影響により生産量が低下したため、原単位あたりのCO<sub>2</sub>排出量(推計)増加という結果となりました。これは、今後の取り組み課題と考えています。

#### GREEN WAVE 21活動実績

		GREEN WAVE 21 行動目標	1997年度	1998年度
グリーン調達		1997年に「グリーン購入ガイド」作成、1999年までに定着	「グリーン購入マニュアル」「グリーン購入ガイド」作成、1997年度より運用開始	お取引先様へ「グリーン購入ガイド」を配付 企業姿勢の調査と有害化学物質調査を実施
回収・再資源		用紙類のバージンパルプの使用量を1995年度比2000年までに20%削減	36%削減(推計)	45%削減(推計)
環境配慮型製品開発		再利用可能部品を組み込んだ商品の開発をめざす リサイクル率100%可能な資材を使用した商品を開発	製品アセスメントガイドおよび規定を制定し、導入・運用を開始 エコマーク商品数39(5シリーズ)	各事業所で製品アセスメントを実施しアセスメント項目の見直しを図る 新規エコマーク商品数64(7シリーズ)、総計103商品(12シリーズ) 環境対応メラミン開発 開発段階における商品企画アセスメントを実施
省エネルギー		工場のエネルギーを1995年度比2000年までに10%削減	10.9%増加(電力量)	15.3%増加(電力量)
省資源		工業用水の使用量を1995年度比2000年までに10%削減	22.3%削減	24.7%削減
発生源対策	温暖化対策	原単位あたりのCO <sub>2</sub> 排出量を、2000年で1990年レベルとする	0.7%増加(推計)	12.0%増加(推計)
	オゾン層破壊対策	代替フロン(HCFC22,141B)を1995年度比2004年までに35%削減	10%削減	3.1%削減
排出物削減		産業廃棄物排出量を、1995年度比2000年までに原単位あたり20%削減	4.5%増加	10.9%削減
環境マネジメント		ISO14001に適合したシステム構築を1999年度までに実施	追浜事業所が業界初のISO14001認証取得	水平展開により、4サイト(生産・物流・オフィス)でISO14001認証取得
オフィスアセスメント		オフィス用「省エネ、省資源、回収、リサイクル、排出物削減ガイド」を1997年度中に作成し導入	「グリーンオフィス・ガイドライン」制定、モデル部門を選定し運用開始	ニューオータニオフィスにてグリーンオフィス活動を実施、同時に空間構築における環境配慮型提案を実施
ホルムアルデヒド放散規制			JOIFA((社)日本オフィス家具協会)の取り組み目標を受け、新たに目標とする	製品アセスメント項目に追加、具体的活動は1999年度から実施

### 2.2. 環境会計

環境マネジメントに関する費用や、環境投資によって得られた利益等の把握・管理は、環境経営を進めていくうえで大変重要です。そのためオカムラでは、GREEN WAVE 21の活動当初から「環境コスト」の管理を課題とし、その仕組みづくりに着手。1997年度までに全社の直接的な「環境コスト」を把握する仕組みを整えました。さらに生産事業所等では、効率改善を目的とした新たな仕組みの構築に向けて作業を進めています。

「1999 環境報告書」作成にあたっては、1999年3月に公表された環境庁の「環境保全コストの把握及び公表に関するガイドライン」に基づき、環境対策を主目的としたコストについては、ほぼ全額を集計し、環境保全コストのみを公表用A表にとりまとめました。なお、区分の難しい研究開発費および減価償却費等については、当社基準により集計しています。今後は、より詳細な環境コストの管理と効果を把握する仕組みを全社会計システムに対応させ、環境負荷低減に寄らせていくことが大きな課題であると考えています。

#### 環境保全コスト

集計範囲：全社

集計期間：1998年4月1日～1999年3月31日

単位：千円

環境保全コストの分類	主な取り組みの内容およびその効果(参照ページ)	投資額	費用総額	
1)環境負荷低減に直接的に要したコスト (直接環境負荷低減コスト)		185,107	279,874	
内訳	公害防止コスト	焼却炉対策、塗装対策	115,344	105,508
	地球環境保全コスト	省エネルギー(P.13) オゾン層破壊対策(P.15) 省資源(P.14) 温暖化対策(P.15)	10,415	8,868
	産業廃棄物および事業系一般廃棄物の処理・リサイクルコスト	廃棄物削減(P.16)	59,348	165,498
2)環境負荷低減に間接的に要したコスト (環境にかかわる管理的コスト)	グリーン調達(P.7) 環境マネジメント(P.17) オフィスアセスメント(P.19) 環境教育/啓蒙活動(P.20)	455	107,324	
3)生産・販売した製品等の使用・廃棄にともなう 環境負荷低減のためのコスト	ロングライフとリサイクル(P.12)	480	145,732	
4)環境負荷低減のための研究・開発コスト (環境R&Dコスト)	環境配慮型製品開発(P.8~12)	333,763	134,061	
5)環境負荷低減のための社会的取り組みに関するコスト (環境関連社会的取り組みコスト)	地域活動および地球資源を守る活動(P.21)	0	21,412	
6)その他の環境保全に関連したコスト		0	0	
合計		519,805	688,403	

項目	内容等	金額
当該期間の設備投資額の総額		2,158,000
当該期間の研究・開発投資額の総額		554,000
1)のにかかわる有価物等の売却益		-17,222
3)にかかわる有価物等の売却益		-5,941

注記：環境庁「環境保全コストの把握及び公表に関するガイドライン」に基づく集計用語については環境庁の定義に基づく

# 3. グリーン調達に関する取り組み

## 3.1. グリーン調達

### GREEN WAVE 21の行動目標

「グリーン購入ガイド」を作成し、環境負荷の少ない商品・資材を優先的に使用・購入します。  
 (1997年にガイド作成、1999年に定着)  
 用紙類のバージンパルプ使用量を、1995年度比2000年までに20%削減します。

### 「グリーン購入マニュアル」「グリーン購入ガイド」

オカムラでは、環境負荷の少ない資材、部品、事務機器、消耗品などを優先的に使用・購入することを目標に、1997年度に社内用「グリーン購入マニュアル」を策定。ISO14001認証取得事業所を中心に運用を開始しました。環境に配慮した資材の購入は、環境配慮型製品を生み出すための重要な入り口です。そのため、1998年度にはお取引先各位へ「グリーン購入ガイド」を配付し、ご協力をお願いしています。さらに、1998年10月には、主要資材を対象に、有害化学物質調査を実施。当社では、有害化学物質の管理基準を法規制よりも厳しく設定しています。1999年度からは、今回の調査をもとに社内使用禁止物質の不使用も含め、グリーン購入を推進していきます。



「グリーン購入ガイド」(1998年6月発行)

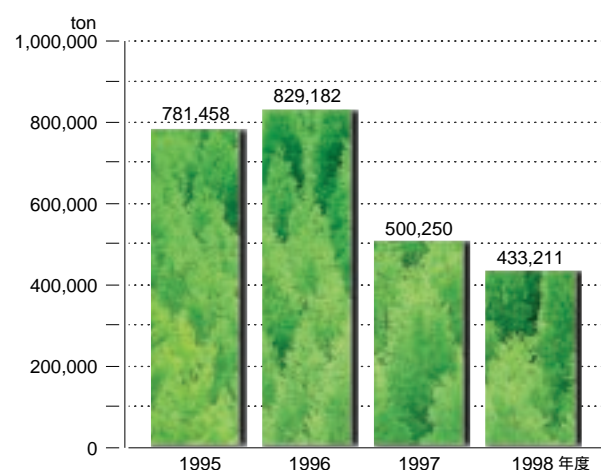
### グリーン購入対象製品群

原材料、主材料、副資材、市販部品
外注部品、外注加工
買入れ製品
内装、造作
事務機器、消耗品
機械設備

### オフィスにおけるグリーン購入

オフィスにおけるグリーン購入もすでに一部で実施し、今後は全社展開を図っていきます。特に1998年度の用紙類バージンパルプの使用量は、1995年度比55%(推計)で、すでにGREEN WAVE 21の目標値を達成しています。これは、紙の使用量の割合が大きい「総合カタログ」を、古紙含有率の高いものに年々切り替えたことが大きな要因です。

### バージンパルプ使用量の推移



### 有害化学物質調査

オカムラ管理基準	用途	調査対象物質数		
		生産、販売、研究・開発過程での使用	商品への使用	合計
A. 使用禁止物質		30	5	35
B. 使用削減物質		34	220	254
C. 使用管理物質		205	50	255
合計		269	275	544

期間: 1997年4月 ~ 1998年3月  
 対象資材: 表面処理材、化粧材、張り材、ボード関係、接着剤関係、ウレタン、樹脂、ゴム

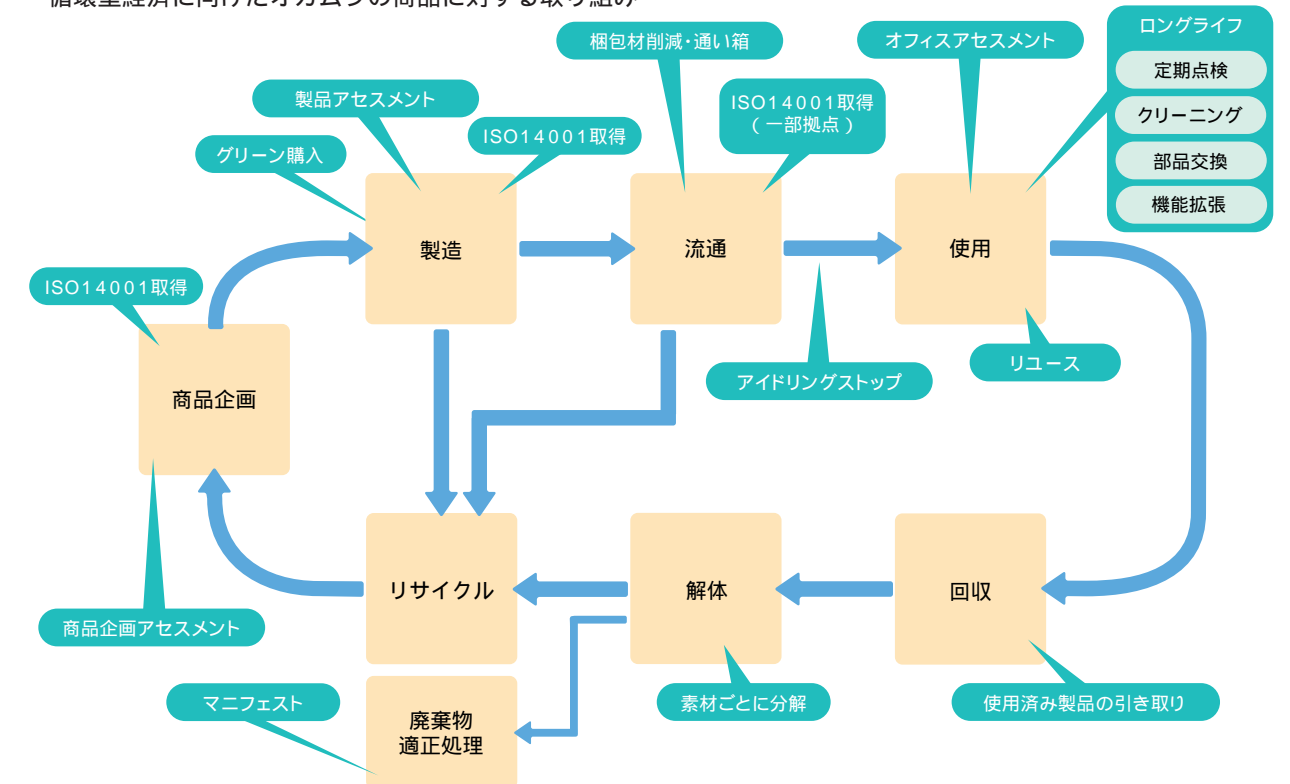
# 4. 環境配慮型製品に関する取り組み

## 4.1. 基本姿勢

有限な資源を有効活用する循環型社会の実現をめざし、オカムラでは製品のライフサイクル全般を考慮した活動を行っています。製品の企画・開発・設計部門では、製造の上流過程でアセスメントを実施すると同時に、さまざまな新技術の開発や導入を継続して行っています。オカムラは、生

産一体の技術開発力を活かしながら、今後も地球環境への配慮に重点を置いた製品づくりを推進していきます。

### 循環型経済に向けたオカムラの商品に対する取り組み



### ISO14001の認証取得

オカムラの商品企画部門や生産事業所の設計部門はすでにISO14001を認証取得し、各自の環境マネジメントシステム運用に際してアセスメントを実施しています。製品アセスメントは製品だけでなく、梱包材も対象です。さらに、一部製品には繰り返し使用が可能な通い箱を採用し、物流における梱包材の削減に寄与しています。さらに、お客様の事務所の移転などをサポートする部門でもISO14001を取得。空間構築のご提案に際してもアセスメントを行っています。

### JOIFA基準の遵守

オフィス家具の廃棄・回収の責任を明確にするため、JOIFA((社)日本オフィス家具協会)で制定されたJOIFA認定番号を、分別設計や材質表示した当社製品に表記しています。オカムラのJOIFA認定番号は、JOIFA308です。





## 4. 環境配慮型製品に関する取り組み

### 4.2. 環境配慮型製品の開発

#### GREEN WAVE 21の行動目標

再利用可能部品を組み込んだ商品の開発をめざします。  
リサイクル率100%可能な資材を使用した商品を開発します。

(社)日本オフィス家具協会(JOIFA)による「JOIFA環境自主行動計画」が1998年に発表され、地球環境に配慮したオフィス家具づくりは業界の責務となっています。オカムラでは、このような状況の変化を先取りし、「GREEN WAVE 21」において、製品アセスメントを「開発活動における環境技術」と位置づけ、積極的な環境負荷低減をめざしてきました。オカムラは、研究開発、商品企画、製造の総力を挙げて環境配慮型製品の開発を推進しています。

#### 環境対応メラミン

オカムラは、アイカ工業(株)と共同で、基材からはがしたときに接着剤が付着しない、環境に配慮したリサイクル可能なメラミン化粧板を開発しました。このメラミン化粧板は、はがしたあとに化粧板の裏側に接着剤が付着しない常温ではがせる化粧板の性能は従来と同じはがしたメラミン化粧板をリサイクルできるなどのメリットをもっています。化粧板に必要な物性試験、環境試験も終了し、現在は化粧板の製品化に向けてモニタリングを継続しています。

#### リサイクル構想



メラミン化粧板をはがす



天板のメラミン化粧板に再利用



輸送効率を高めるための第1次粉碎



第2次粉碎により再資源化

#### 事例.....

#### オフィスチェアCX-SPLAGEシリーズ

1997年9月に発売したオフィスチェアCX-SPLAGEシリーズは、オカムラの環境配慮型の製品づくりの考え方を最も端的にあらわしています。GREEN WAVE 21の行動目標である「再利用可能部品を組み込んだ商品の開発」「リサイクル率100%可能な資材を使用」を実現するために製品アセスメントを重ね、開発中に申請した特許7件、実用新案1件。発売と同時にエコマークの申請を行い、1998年2月にエコマークの認定を受けています。

#### 再資源化

・分別設計  
・分解容易性



使用済みのイスを1次分解した状態。このあと素材ごとにさらに細かく分解し、リサイクルに回します。

#### オゾン層破壊防止

・ノンフロン発泡クッション

#### 快適性

・肘および背の構造  
(特願平9-16249、45085)

#### ロングライフ

・部品および張り材の交換容易性  
(特願平9-299043、359770)  
・へたりにくい座クッション構造  
(特願平8-42989)

#### エルゴノミクスチェア CX-SPLAGEシリーズ

エコマーク認定番号: 第97068014号

#### 情報開示

・材質表示(アルミ、プラスチック)  
・取扱説明書を座裏のポケットに収納  
(特願平6-55757、実用新案登録2084482号)

#### 再生素材利用

・背クッションに再生ウレタン



再生チップモールド成形  
芯材: スチールパイプフレーム  
**特徴**  
・再生チップモールドによる十分な座り心地  
・再生チップモールドの採用による資源の有効活用  
・再生チップモールドとスチールパイプフレームの分解容易性  
(特願平9-299044)

・肘にペット再生材



ポリエチレンエラストマー+ペット再生樹脂  
**特徴**  
・部品の統合化、一体化による部品点数の削減  
・分解容易性(リサイクル時の分離が不要)  
・ペット再生材による資源の有効活用

#### 事例.....

#### デスクシステムSDシリーズ

オカムラでは、リサイクル可能なメラミン化粧板「環境対応メラミン」の実用化に向けて、現在デスクシステムSDシリーズの開発を進めています。もちろん、リサイクル素材の使用に加え、分別設計、材質表示など、オカムラ独自の製品アセスメントを実施。より一層環境負荷の少ない製品として発売を計画しています。

#### 再資源化

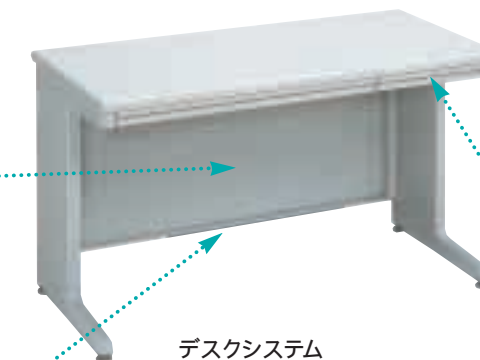
・分別設計  
・分解容易性



机の分解

#### 情報開示

・材質表示(プラスチック)



デスクシステムSDシリーズ

#### 再生素材利用



エコマーク商品ベントレー  
エコマーク認定番号: 第99013034号



材質表示

### 4.3. グリーンウェーブ商品とエコマーク商品



環境保全のための行動目標

オカムラ独自の「グリーンウェーブ商品」を選定します。  
 エコマーク商品の拡大を積極的に進めていきます。

グリーンウェーブ商品とエコマーク商品

オカムラでは、自然環境の保護・リサイクル推進の観点から、当社独自のグリーンウェーブ商品を選定しています。このグリーンウェーブ商品は環境保全に役立つ商品で、エコマーク商品も含まれています。オカムラでは、今後もグリーンウェーブ商品とエコマーク商品の拡大を積極的に推進していきます。

グリーンウェーブ商品選定ポイント

オカムラは、以下の4つのポイントでグリーンウェーブ商品を選定しています。

- 環境汚染物質の削減 **ノンフロン**
- 長期使用可能 **ロングライフ**
- リサイクル可能 **分別設計 材質表示**
- 再生素材利用 **再生樹脂 再生紙**

グリーンウェーブ商品選定数

カテゴリー	選定数
机	12 シリーズ
オフィスチェア	9
ローパーティション	6
OAフロア	2
ミーティングチェア	12
ロビーラウンジチェア	7
収納システム、ロッカー	4
ファイリングサプライ	19
分別ボックス	8
施設用家具	3
教育施設用家具	5
図書館用家具	2
医療施設用家具	2
合計	91 シリーズ

エコマーク商品数

カテゴリー	シリーズ	認定数
オフィスチェア	エルゴノミクスチェア CXシリーズ	32
	エルゴノミクスチェア CX-SPLAGEシリーズ	10
	エルゴノミクスチェア SXシリーズ	20
	エルゴノミクスチェア CG-Eシリーズ	4
ミーティングチェア	ステンレスパイプチェア8122シリーズ	4
	折りたたみイス8157シリーズ	2
OAフロア	ニューロフロアEタイプ(ベースユニット)	1
ファイリングサプライ	個別フォルダー	9
	整理ストッカー(エコスト)	2
エコロジカルコンテナ	分別ボックス	5
	分別ペール	11
施設用家具	エコベンチシリーズ	3
合計		103

オフィス製品



CXシリーズ(エコマーク類型No.68)



アブション(分別設計・材質表示)

パブリック製品



8122シリーズ(エコマーク類型No.68)

商環境



ゴンドラ(ボルトレス・粉体塗装)

建材



ヴァリトランス(分別設計・分解容易性)

システム機器



パーティキュ(省エネルギー)

### 4.4. ロングライフ製品の長期使用とリサイクル

環境保全のための行動目標

製品の長期使用およびリサイクルの推進により、エネルギーや資源の有効活用を図ります。

ロングライフ化への取り組み

「お客様に製品を長くお使いいただく」ことは、エネルギーや資源の有効活用であり、廃棄物の削減にもつながります。壊れたら捨ててしまう生活から、壊れた部分だけを取り替えて長く大事に使用する生活へ。オカムラでは、循環型社会実現のためにさまざまなサービス体制を整え、お客様により長く製品をご利用いただくためのサポートをしています。

定期点検

新しく購入された設備や什器に不具合がないかを点検します。また、快適なオフィス環境を保ちながら、製品を長くお使いいただくための定期点検を行っています。



家具クリーニング



クロスなどが汚れてしまった製品も、家具クリーニングによりさらに製品寿命を伸ばすことが可能となります。タバコのヤニや手垢、ホコリなどの汚れがついたオフィスチェアやパーティションの汚れも、強力吸水のパキュームモーターを搭載した画期的な小型スチーム洗浄器でクリーニングすれば新品同様に。これまで、廃棄や買い換えを検討していた什器をさらに長くご愛用いただけます。

パネルリフォーム

日焼け、色あせ、著しい摩耗があるパーティションには、製品寿命が伸びるばかりでなく、お客様のオフィスのコストダ

ウンにつながるリフォームを提案しています。このほかオカムラでは、必要に応じて部材の張り替えや交換ができる製品とサービスを提供しています。



ロングライフデザイン賞

グッドデザイン賞受賞後、10年以上継続して生産・販売している製品で、今日でも選定の目的に合致しているものには



「ロングライフデザイン賞」が与えられます。オカムラでは、これまでにロングライフデザイン賞を61点受賞し、現在でも16点の製品を生産・販売しています。

使用済み製品の回収、リサイクル

お客様への製品納入時には、ご希望により使用済み製品をお引き取りいたします。これらの使用済み製品は、素材ごとに丁寧に分解してリサイクルに回し、資源の有効活用を行っています。また、どうしてもリサイクルできない産業廃棄物に関しては、産業廃棄物管理票(マニフェスト伝票)により廃掃法(廃棄物の処理及び清掃に関する法律)に基づいた処理を行っています。





# 5. 省エネルギーと省資源に関する取り組み

## 5.1. 省エネルギー

### GREEN WAVE 21の行動目標

工場のエネルギーを、1995年度比2000年までに10%削減します。(電気、ガス、灯油等)

各生産事業所では、GREEN WAVE 21の行動目標にしたがい、2000年までに1995年度比10%のエネルギー削減に向けて取り組んでいます。オカムラでは、クリーンエネルギーのより効率的な利用を図りながら、使用するエネルギー総量の削減に取り組めます。

#### 電力

1998年度の生産部門の電力量は、1997年度に比べて増加しています。これは、新工場(中井事業所)の稼働が大きな要因だと考えています。今後は、各事業所の環境マネジメントシステム運用により、計画的な削減に取り組めます。

#### 重油・灯油

オカムラでは、重油や灯油に比べて燃焼時のNOx、SOx排出量が少なく、CO<sub>2</sub>排出量も少ない天然ガス・液化石油ガスへの移行を進めています。この取り組みにより、1998年

度までに重油使用量はゼロとなったほか、灯油の使用量も年々減少しています。

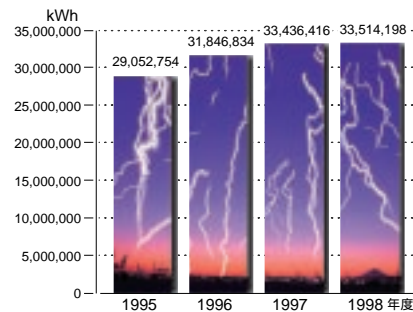
#### 都市ガス

1998年度の都市ガス使用は、灯油の代替から予想される以上の量となりました。これは、新工場(中井事業所)の稼働が要因と考えています。今後は、より効率的な都市ガス使用に積極的に取り組めます。

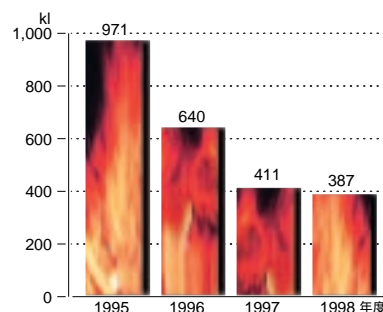
#### ピークカット

ピーク時の使用電力を他の時間にシフトすることにより、安定した電力の供給と発電設備の規模縮小が可能となります。これに協力するために、各工場では、6~9月の間、昼休み時間を1時間遅らせ、一部出勤日を平日から土日としています。

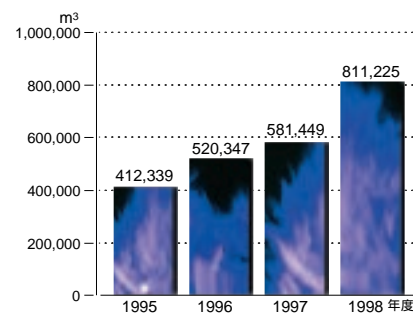
電力使用量の推移



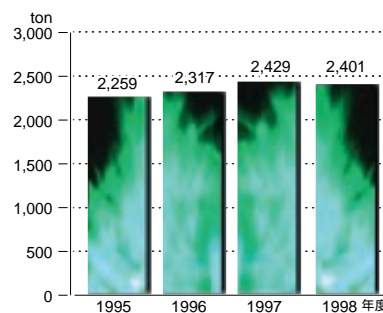
灯油使用量の推移



都市ガス使用量の推移



LPG使用量の推移



中井事業所ガスタービンシステム



中井事業所では、土壌汚染や大気汚染防止のため、よりクリーンな都市ガスを使用しています。

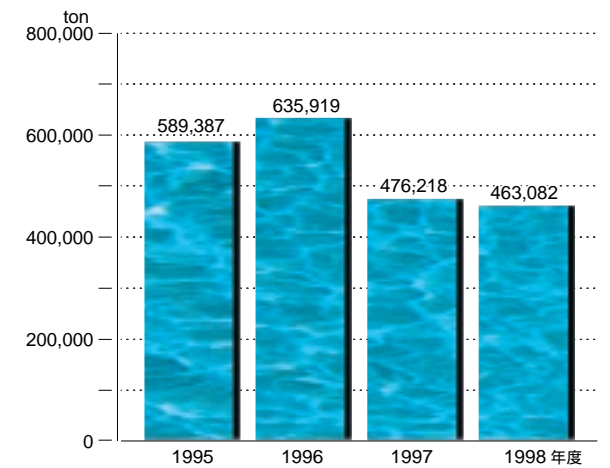
## 5.2. 省資源

### GREEN WAVE 21の行動目標

工業用水の使用量を2000年までに1995年度比10%削減します。

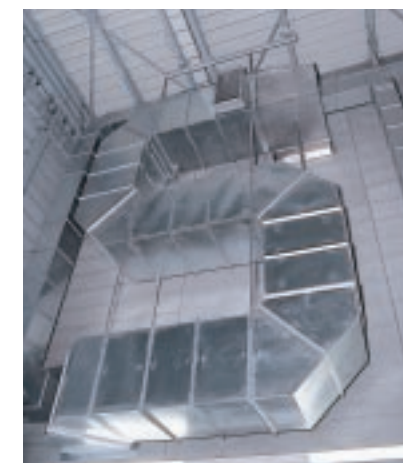
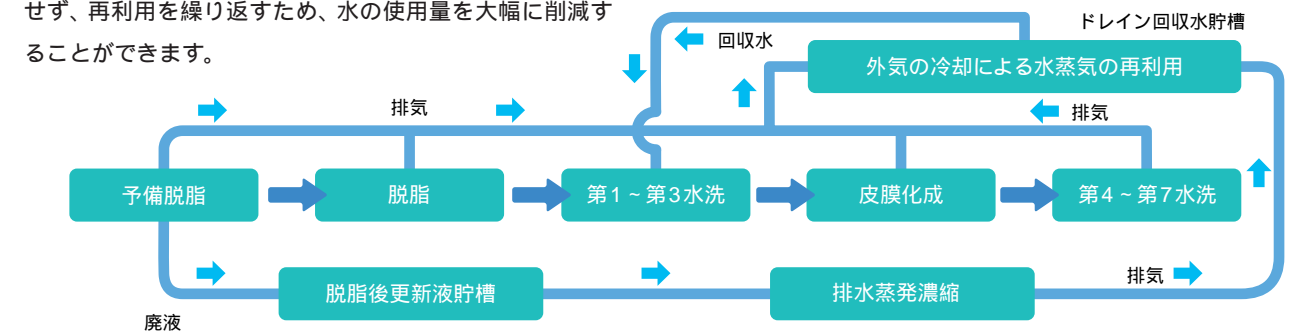
工業用水使用量は、年々増加傾向にありましたが、GREEN WAVE 21の活動を始めた1997年から大幅に減少し、行動目標をすでに達成しています。これは、追浜事業所とつくば事業所に節水システムを導入したため、このシステムの採用により工業用水の大幅な削減を実現しました。1998年には、節水クローズドシステムと雨水利用システムにより、他に類を見ないほど水使用量が少ない新工場(中井事業所)が竣工。新たな生産拠点を加えたにもかかわらず、全体の使用量が削減されました。

工業用水使用量の推移



#### 節水クローズドシステム

中井事業所では、塗装表面処理設備に独自の水循環システムを採用しています。水洗洗浄による排水はすべて排出せず、再利用を繰り返すため、水の使用量を大幅に削減することができます。



蒸発した水分を収集し再利用するための蒸気冷却装置。機器から発生した熱による蒸気を冷却して水に戻元し、再び生産ラインで有効活用します。

#### 雨水利用システム

中井事業所では、屋上に雨水を有効利用する設備を設置しています。屋上に貯まった雨水をダクト経由でタンクに送り、洗浄したのちトイレ用の生活用水や散水用水として利用しています。このタンクの容量は210tあり、フル操業時でも約半月分のトイレ用水に使用できます。





# 6. 排出物に関する取り組み

## 6.1. 発生源対策

### GREEN WAVE 21の行動目標

原単位あたりのCO<sub>2</sub>排出量を、2000年で1990年レベルとします。

代替フロン(HCFC22,141B)を、1995年度比2004年までに35%削減します。

### CO<sub>2</sub>

全社で使用するエネルギー、水、排出する廃棄物などからのCO<sub>2</sub>排出量(炭素換算)の1998年度の実績は、総量で1990年度比3.2%増加しています。これは、水の使用量と廃棄物量が順調に削減されているものの、電気や燃料の使用量が増加していることが原因と思われます。また、原単位あたりのCO<sub>2</sub>排出量も12.0%増加しています。

### フロン

1998年度の代替フロン使用量は12.41t、1995年度に比べ3.1%削減しました。オカムラでは、店舗用冷凍ショーケース製造において、特定フロンから切り替えた代替フロン(HCFC22とHCFC141B)を使用しています。現在、海外を中心に家庭用冷蔵庫の脱フロン化が進んでいますが、店舗用の大型ショーケースについてはまだまだ課題が多いのが現状です。今後の動向を踏まえて、現在使用している代替フロンの削減や、さらなる切り替えを検討していきます。なお、オフィスチェアのウレタン発泡については、すでに1990年の時点で、当社独自の研究開発により、フロンも代替フロンも使用しないウレタン発泡方法に切り替え済みです。

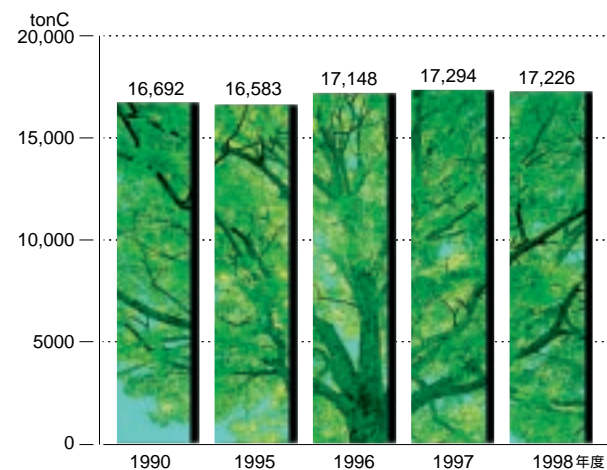


ノンフロン発泡ウレタン

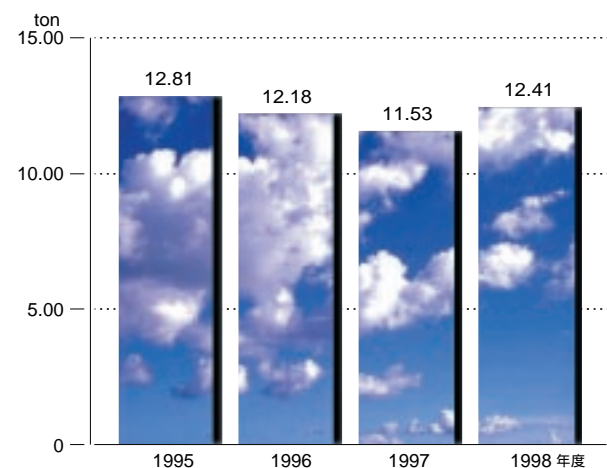
**地球温暖化**  
化石燃料の燃焼時に発生するCO<sub>2</sub>などの温室効果ガスにより、地球の温度が上昇する現象。気候変動や、農作物への影響が予測されています。

**オゾン層破壊**  
フロンガス中の塩素原子により、オゾン層が破壊される現象。有害な紫外線が地上に注がれるため、皮膚癌や白内障を誘発します。

CO<sub>2</sub>排出量の推移(炭素換算、推計)



代替フロン使用実績



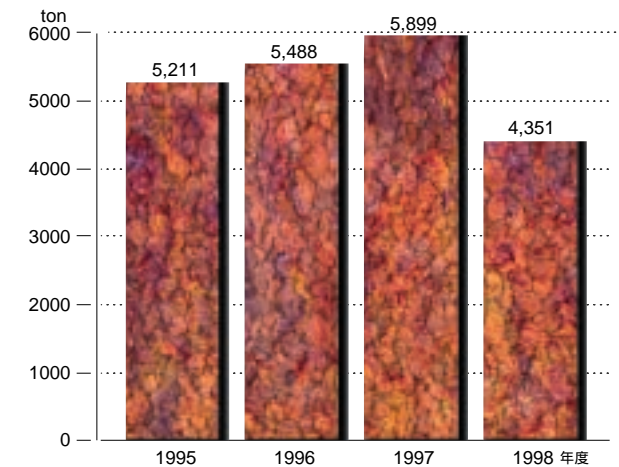
## 6.2. 廃棄物削減

### GREEN WAVE 21の行動目標

産業廃棄物の排出量を、1995年度比2000年までに原単位あたり20%削減します。

行動目標実現のために、各生産事業所では、ISO14001に基づく環境マネジメントシステムを実施してリサイクルを推進し、廃プラスチックの分別や、溶剤の回収・再利用など、産業廃棄物の削減に取り組みました。その結果、原単位あたりの産業廃棄物量は1998年段階で1995年度比10.9%削減となり、行動目標達成に向けて確実に取り組んでいます。1998年12月より廃掃法が改正され、すべての産業廃棄物にマニフェスト伝票による管理が義務づけられました。各事業所では、法改正以前からすでに産業廃棄物排出時にマニフェスト伝票を発行し管理を行っています。

産業廃棄物量の推移

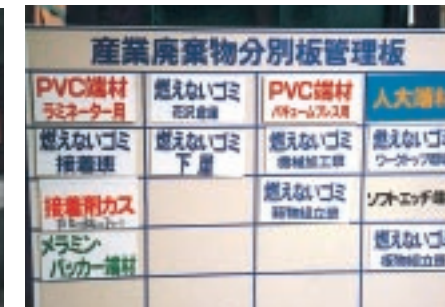


廃棄物の内訳

		1995年度	1996年度	1997年度	1998年度
一般廃棄物		536	560	281	352
産業廃棄物	汚泥	516	532	429	452
	廃油	239	224	610	391
	廃プラスチック	1,646	1,763	1,844	1,344
	紙屑	181	211	323	335
	木屑	1,574	1,742	1,450	1,683
	その他	1,055	1,016	1,243	146
合計		5,747	6,048	6,180	4,703



廃プラスチック等の分別回収・管理



分別管理板

# 7. 全社環境マネジメントシステムの構築をめざして

## 7.1. 環境マネジメントシステム

### GREEN WAVE 21の行動目標

ISO14001環境管理システムに適合した環境マネジメントシステムの構築を、1999年度までに実施します。

オカムラでは、ISO14001に適合した環境マネジメントシステムの構築をめざし、生産部門・オフィス部門の各事業所で、ISO14001認証取得を進めています。特に生産部門では、1999年8月までにすべての事業所が認証取得します。

#### 生産部門

1997年9月、オフィス家具業界では初めて、追浜事業所(横須賀市)がISO14001を認証取得しました。続いて1998年度末までに3事業所が認証取得。1999年8月には残る1事業所が認証取得します。先に認証取得した追浜事業所は、1年後のサーベランスを順調に終了。現在も継続的改善を行っています。

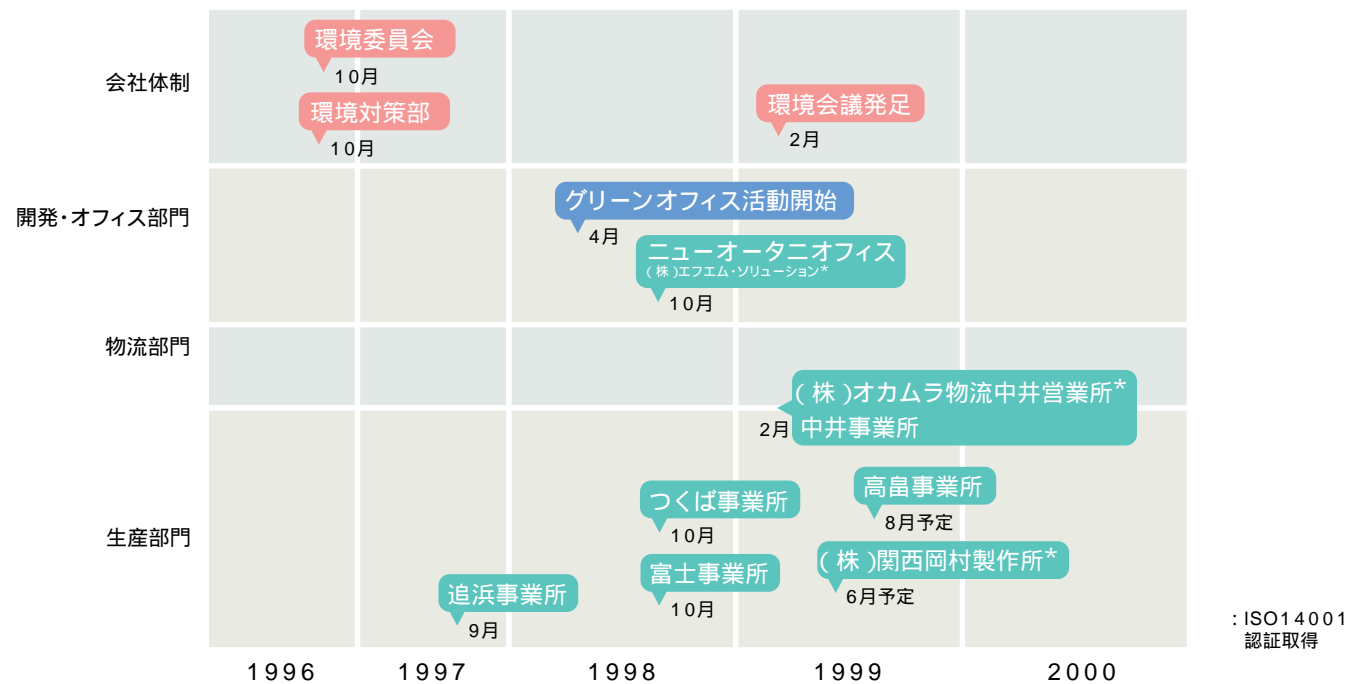
#### 開発・オフィス部門

ニューオータニオフィス(ホテルニューオータニ内)は、業界で初めて開発・オフィス部門としてISO14001を認証取得しました。このオフィスの商品企画部門、空間構築提案部門、情報管理提案部門は、オフィス活動におけるゴミの分別やエネルギー使用量削減はもちろん、環境に配慮した企画・提案業務を行っています。

#### 物流部門

中井事業所に併設された(株)オカムラ物流中井営業所ではISO14001を認証取得。エネルギー使用量削減や、廃棄物の分別等に取り組んでいます。

### ISO14001に適合した全社環境マネジメント体制の確立



#### ISO14001認証取得番号

追浜事業所	JSAE 014	(1997年9月24日取得)
富士事業所	JSAE 058	(1998年10月5日取得)
つくば事業所	JSAE 060	(1998年10月5日取得)
ニューオータニオフィス、(株)エフエム・ソリューション	JSAE 067	(1998年10月30日取得)
中井事業所、(株)オカムラ物流中井営業所	JSAE 097	(1999年2月24日取得)

\* : (株)関西岡村製作所、(株)オカムラ物流、(株)エフエム・ソリューションは、(株)岡村製作所の関係会社です。

## 事業所における取り組み

21世紀に向けてオカムラでは、環境に与える影響を十分に考慮し、すべての事業所で環境保全に向けたさまざまな活動を行っています。その代表的な取り組みを、最新鋭の中井事業所を例にご紹介いたします。

### 中井事業所(神奈川県秦野市)

神奈川県が西のハイテクゾーンと位置づけた「グリーンテクなかい」に立地する中井事業所は、1998年4月より操業を開始。建設にあたっては、神奈川県条例で定められた環境アセスメントを行ったほか、土壌汚染防止の観点からボーリング調査を実施しました。このボーリング調査を契機に、オカムラでは事業所の環境マネジメントシステム構築時に土壌汚染状況の調査を計画し、実施しています。また、中井事業所では操業後も地域安全協定に基づく地域住民への報告を毎年1回実施するなど、地域社会と一体となった環境対策を進めています。



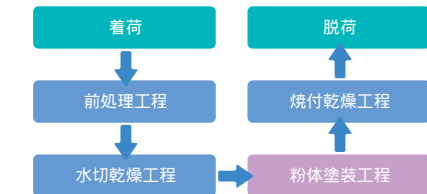
### 地域安全協定

- 1 総括
- 2 環境安全組織の整備
- 3 化学物質の製造・使用・保管計画等
- 4 大気汚染防止対策
- 5 水質汚濁防止対策
- 6 廃棄物対策
- 7 災害事故防止対策
- 8 地震対策
- 9 騒音・振動対策
- 10 自己監視
- 11 その他必要と認められる事項

中井町および周辺6自治会等との協定

### 環境に配慮した粉体塗装ライン

塗装に関しては、有機溶剤を使用しない粉体塗装とカートリッジ方式塗料回収システムを導入。無公害化と生産効率向上の両立を図りました。



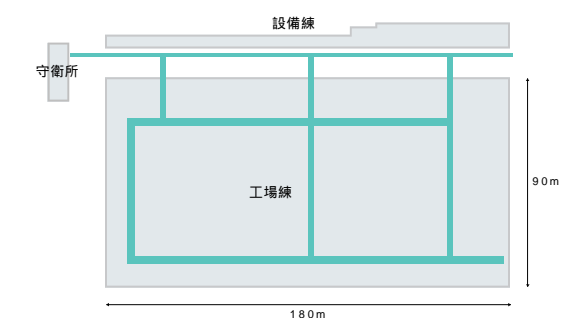
### 緊急事態に対応した地下トレンチ

万一、有害物質が配管から漏洩した場合の土壌汚染防止と点検のために、地下トレンチを配置しています。



地下トレンチのメイン通路。高さ約1.9m、幅約3.7m。

### 中井事業所地下トレンチ配置図





## 7. 全社環境マネジメントシステムの構築をめざして

### 7.2. オフィスアセスメント

#### GREEN WAVE 21の行動目標

オフィス用の「省エネ、省資源、回収、リサイクル、排出物削減ガイド」を、1997年度中に作成し導入します。

#### グリーンオフィス活動

オカムラでは「グリーンオフィス・ガイドライン」を作成し、ニューオータニオフィスをモデル部門として、グリーンオフィス活動を実施してきました。その主な内容は、省エネルギー、省資源、排出物の削減、グリーン購入など。このグリーンオフィス活動により、

オフィス活動に起因する環境影響の低減

社員一人ひとりの環境意識の定着

などの成果があがっています。現在では、他のオフィスでもグリーンオフィス活動を展開しています。



「グリーンオフィス・ガイドライン」  
(1998年3月発行)



オフィス内から排出されるゴミは、社員一人ひとりが責任を持って分別を行います。



分別回収されたゴミは、測定・記録し、排出物削減の管理を行います。

#### 環境配慮型オフィス空間の提案

オフィス環境を創造するオフィス研究所では、お客様への提案を行う前に、オフィスがおよぼすさまざまな環境影響についてのオフィスアセスメントを実施しています。たとえば、

解体を考慮したインテリア計画

省エネを考慮した照明計画

などを含むいくつもの項目によるチェックを行っています。これにより、従来までの快適なオフィスという視点に加え、環境配慮型のオフィス空間をお客様にご提案することが可能となりました。



オフィス研究所があるニューオータニオフィス。1998年10月にISO14001を認証取得。

### 7.3. 環境教育 / 啓蒙活動

#### 環境保全のための行動目標

社員一人ひとりの環境意識の啓発・向上と、社会への啓蒙活動を行います。

オカムラでは、社内のニーズとレベルに応じた環境教育を随時行うとともに、労働安全についても積極的に取り組んでいます。また、当社販売店様やお客様などに対してもオカムラの環境への考え方を広く伝え、ご協力を賜るようさまざまな機会に努力しています。



社内報の環境ページ

#### 社内環境教育

全社における環境教育は、環境対策部が中心となり下記の表のように随時実施しています。なお、各サイト内での教育は別途実施しています。

対象	回数	
	1997年度	1998年度
社内報連載(毎月)	6	12
従業員	36	12
ISO14001構築・実施のための教育	13	60
合計	55	84



各サイトでの個別勉強会

#### 社外での啓蒙活動

オカムラでは、社外においても環境保全に関する啓蒙活動を展開しています。

対象	回数	
	1997年度	1998年度
展示会出展	0	8
お客様	0	6
販売店様	0	5
お取引先様	2	各サイトで実施
学会その他	3	3
合計	5	22



各種展示会への出展

# 8. 社会貢献活動

## 8.1. 地域活動および地球資源を守る活動

### 環境保全のための行動目標

企業活動における環境への取り組みを通じ、社会に貢献します。

#### 地域社会における活動

オカムラでは、会社と社員が一体となって地域社会における環境保護活動を行っています。緑豊かな地域に立地する事業所では、自然緑地と一体化した緑化への取り組みを目標とした環境方針を定め、積極的に緑化活動を行っています。このうち、中井事業所で緑化率38%を達成したほか、高島事業所では、設立当初から工場の緑化を推進してきた結果、1984年に緑化優良工場として(財)日本緑化センター会長賞を受賞しました。また、社員が事業所周辺の清掃活動を行うなど、地域美化に貢献する活動を展開しています。



工場周辺の清掃活動

#### 地球資源を守る活動

オカムラは木材などの切削片、破砕片を捨てずに利用した「パーティクルボード」を日本で最初に家具に導入しました。現在では、さまざまな部分にパーティクルボードを使用し、資源の有効利用を図っています。一方、人工林では、豊かな森林に育てるために間伐が行われます。この間伐材や、これまで製材時に廃棄されていた小径木も、オカムラでは家具の原材料として使用しています。特にオカムラジュニアデスクには、小径木や、樹液を採取したあとのゴムの木などを利用しています。



間伐材・小径木を使用した学習机

### 事業所環境方針(抜粋)

各事業所の環境方針には、周辺地域や自然保護に対する配慮が盛り込まれています。

#### 追浜事業所

海浜に近接する立地条件を認識し、事業所排水、有害物質の地下浸透等による海洋汚染防止のため、徹底管理する。

#### 富士事業所

富士山の麓に立地し、「自ら行動します。すばらしい環境を、明日に伝えよう」のスローガンのもとに、事業所の活動、製品及びサービスに関して環境保全活動を実施し、維持する。



#### つくば事業所

既存樹林を生かした立地条件を認識し、緑豊かな環境を確保することを目的としたつくばテクノパーク豊里緑化協定を遵守した樹林保全活動を行う。



#### 中井事業所

当事業所は神奈川県西のハイテクゾーンに位置づけられた「グリーンテック中井」に立地している為、自然環境と一体化した緑化推進を図る。

## 会社概要

社名	株式会社岡村製作所 (OKAMURA CORPORATION)
本社	〒220-0004 横浜市西区北幸1-4-1天理ビル19F TEL 045 (319) 3401代表
創業	昭和20年10月[1945年]
設立	昭和21年7月[1946年]
資本金	18,670百万円[1999年3月31日現在]
事業内容	スチール家具全般の製造・販売 産業機械その他の製造・販売 金属製建具取付工事の請負 建築業に関わる付帯工事・設計・製造・販売 商品陳列機器その他の製造・販売 事務所の環境向上と事務・生産効率向上に関する情報の提供とこれに関連する機器の製造・販売
事業所	追浜 / 富士 / つくば / 高島 / 中井
従業員	2,940名 [1999年3月31日現在]
支店	全国109支店 [1999年3月31日現在]
特約店	全国139店 [1999年6月現在]
パール会店	全国433店 [1999年6月現在]

## 環境への取り組みの歴史

1993年 4月	第1次環境中期計画「豊かな未来へ」スタート
1996年 4月	中井事業所環境アセスメント
6月	グリーン購入ネットワーク加入
10月	環境対策部発足
	環境委員会発足
11月	「GREEN WAVE 21」策定
1997年 4月	第2次環境中期計画「GREEN WAVE 21」スタート
9月	追浜事業所 ISO14001 認証取得
10月	環境パンフレット「GREEN WAVE 21」発行 社内報に「環境ページ」連載スタート
1998年 1月	「グリーンウェブ商品ガイド」発行
	エコマーク認定(3製品シリーズ)
3月	「グリーンオフィス・ガイドライン」策定
4月	「グリーン購入マニュアル」策定
6月	「グリーン購入ガイド」をお取引先様へ配付
	「環境データ報告書1997年度版」発行(社内)
8月	エコマーク認定(4製品シリーズ)
10月	富士事業所、つくば事業所、ニューオータニオフィスが ISO14001 認証取得
11月	有害化学物質調査実施(お取引先様対象)
1999年 1月	エコマーク認定(1製品)
	環境対応メラミン共同開発、新聞発表
2月	中井事業所・(株)オカムラ物流中井営業所が ISO14001 認証取得 第1回全社環境会議開催(社長主催)、1999年度活動方針決定





よい品は結局おトクです

**オカムラ**

株式会社 岡村製作所



この報告書は、  
・エコマーク認定の印刷用再生紙(古紙の利用100%)  
・高分解性に優れたアロマフリー型大豆油インキ  
・環境に配慮したダイレクト印刷  
によって作成いたしました。

(株)岡村製作所 環境対策部  
〒220-0004 横浜市西区北幸1-4-1 天理ビル

お問い合わせ・ご相談は お客様サービスセンターへ  
フリーダイヤル ☎ 0120-81-9060  
月曜～金曜(祝祭日を除く)9:00AM～6:00PM

インターネットでオカムラの最新情報をご覧ください。  
[OKAMURA TODAY] <http://www.okamura.co.jp/>

YZC405-991 P. TP '99-9